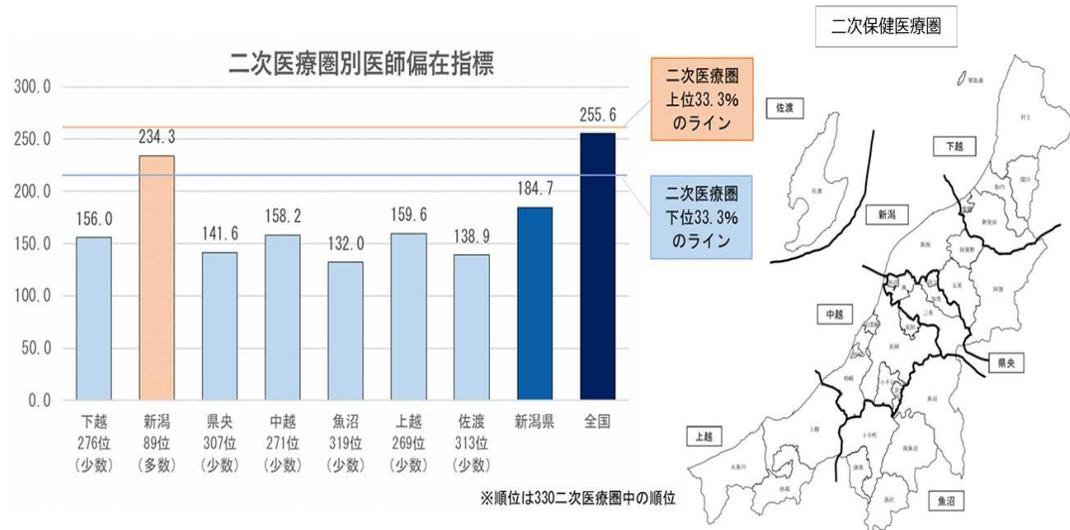


J Aグループ新潟による医師確保の取組支援について

新潟県の医師確保状況

「医師偏在指標」では新潟県の全国順位は（医師充足が全国3番目に少ない）45位で新潟圏域以外の6医療圏が医師少数区域に位置づけられており、医師確保が課題となっています。【下図参照】



「医師偏在指標」とは、全国ベースで医師の多寡を統一的・客観的に比較・評価する指標として、医療需要（ニーズ）及び人口・人口構成とその変化、患者の流入・流出、へき地等の地理的条件、医師の性別・年齢分布等を考慮した指標（国が設定）

地域枠にかかる新潟県と杏林大学及び厚生連の協定締結

新潟県内の医師不足及び医師の地域偏在の解消ならびに安定的な地域医療の確保を目的に、三者（新潟県、杏林大学、厚生連）が相互に協議することに合意、医学生養成、医師配置等に関して令和3年12月22日に協定を締結しました。

※記事「日本農業新聞」より

日本農業新聞

医学部地域枠に抛出

J Aグループ新潟 全国初、医師確保へ

JAグループ新潟は、県内の医師不足や地域偏在の改善のため、新潟県が進めている医学部地域枠に本年度から抛出を始めた。今年4月に杏林大学へ同枠で入学した2人について、修学資金を県とJAグループが貸与。卒業後、一定期間の県内厚生連病院への勤務で全額を返還免除する。JA全厚連によると、JAグループの同枠への抛出は全国で初という。

地域枠は医学部で学ぶ6年間の学費を県などが負担し、卒業後に県内で指定の医療機関に9年間の勤務を義務付ける制度だ。今回新たにJAグループが抛出した2人は、9年間のうち5年間以上の厚生連病院での勤務を義務とする。同県は国が示した医師偏在指標で岩手県と並んで全国最下位と、医師不足が課題となっている。医師の高齢化もあり、必要医師数を確保するには初期研修医が

年間200人以上求められるという、1000人前後で推移している。JA新潟中央会・連合会共通会長の伊藤能徳会長は「地域医療の役割を担っているのは県立病院と厚生連病院である」と、県との認識を共有している。どこに住んでいても十分な医療を受けられるよう、人材を確保し育てていく」と話す。

県と同大学、JA新潟厚生連は昨年12月に医学生養成と医師配置などに関して協定を締結した。

J Aグループ新潟による医師確保の取組支援について

J Aグループ新潟による支援

●杏林大学地域枠とは…

医学生に6年間の学費を県とJ Aグループ（当会を含む）が「新潟県医師養成修学資金」として貸与し卒業後県内医療機関に9年間（うち厚生連病院は5年以上）の勤務を義務とする制度です。

●J Aグループからのご支援

当資金に対してはJ A共済連新潟、J Aバンク新潟県信連、J A全農にいがたより多大なご支援を賜り、将来厚生連病院で勤務する医師の確保を通じて、地域医療を安定的・継続的に提供していくことに貢献しています。

医学生の活動について

- ・1～5年生の間、修学生合同の夏季実習に参加し、地域医療を体験します。また、毎年2～3月に新潟県内の厚生連病院で実習を行います。
- ・定期的に新潟県と厚生連の担当医が医学生と面談を行い、医学生を支援します。

制度を活用した医学生養成の実績

R4年度新入生 2名 R5年度新入生 3名

R6年度新入生 4名 R7年度新入生 4名

計 13 名

※J Aグループ新潟としての支援は各年度2名が対象

